

23 我が街 船橋を歩く—神社仏閣(21) 海神念仏堂—

29期 仲田 元昭

前回ご案内しました大覚院より徒歩5分程の行徳街道沿いにある、船橋市指定有形文化財の木造 阿弥陀如来立像や市内最古の道標等で有名な海神念仏堂をご案内します。

「海神念仏堂」

海神念仏堂の開基は不明ですが、墓地には、第四代将軍、徳川家綱の時代である慶安4年(1651)の墓碑もあり、創建時期はかなり古いと考えられています。

元禄年間(1700)前後(第五代将軍、徳川綱吉の時代)に芝増上寺の住持(寺の代表僧)となった祐天上人の教化により、浄土宗の寺院の形を整え、念仏堂の名の通り常念仏の修行が行われ、また信者が集まって念仏を唱えていたといわれています。



市有形文化財が安置されている海神念仏堂

「木造 阿弥陀如来立像」

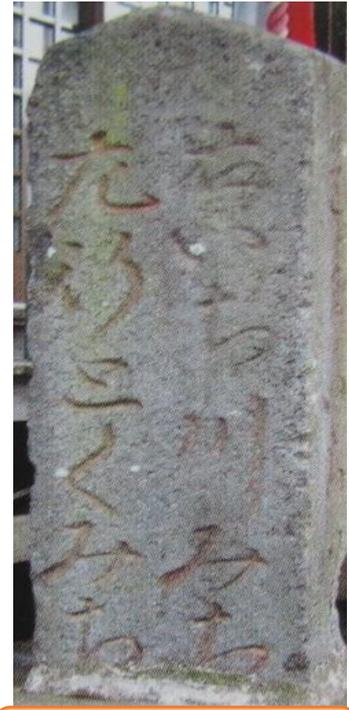
(市指定有形文化財)

堂内に安置されている阿弥陀如来立像は寄木造、平安時代末期前後(12世紀後半)の作とされ、定朝様の端麗優美な美術的にも優れた仏像で、市の有形文化財に指定されています。

縁起によればこの仏像は、俵藤太藤原秀郷の造立と伝えられ、近くにあった善光寺の本尊であったが廃寺となり、松戸市の浄土宗東漸寺に移されたものを、江戸神田鍋町の商人高麗屋佐治右衛門が、元禄14年(1701)に亡くなった父の菩薩を弔うため、この堂に納めたといわれています。



木造 阿弥陀如来立像
(写真 市HPより)



市内最古の道標
左行とく道 右いち川道

「市内最古の道標」

観音堂の傍らには、「右 いち川みち 左 行とくみち」と刻まれた市内最古の道標がありますが、元は行徳街道と成田街道(佐倉道)の分岐点にあったもので、元禄7年(1694)10月26日に海神講仲間が建てたものです。この付近では、戊辰戦争、市川・船橋戦争の海神の戦いが行われた場所で、墓地には新政府兵1名と旧幕府兵4名の合葬墓があります。

(参考図書: 船橋のあゆみ他)「24 我が街 船橋を歩く 神社仏閣(22)」に続く「2022-11-1 寄稿」